

モンテソーリの母親學校を觀る

高師教授 樋口長市

一、モンテソーリの本陣

モンテソーリは幼兒の教養所を幼稚園と云はずして、母親學校と名をつけて居りますがこれには意味のある事であります。即ちこの女史は、幼兒の教育は在來の幼稚園のやうな遣り方ではない、あだかも母親が自分の子供を家庭で養育するやうな遣り方でなくしてはならぬ、と云ふ所から、在來の幼稚園の名稱を嫌つたのであります。諸その實際を見ますと成る程所謂幼稚園と所謂母親學校とは、その方法に於て著しく異つてゐることが適實に感ぜられるのであります。

モンテソーリは、米國に於ては、その根據地を最初、サンフランシスコ市に置いたのであります。同地は氣候が餘りよろしくないと言ふので、その後、加州の南部ハリウッドと云ふ所に移しました。私が同校を參觀しましたのは、あだかも大正八年七月二

日の暑中休暇になる前の日であります。當時、同女史はその主義宣傳のために、スペイン國を旅行中であります。其の留守宅を、高弟なる某娘があづつて居りました。子供の數は最初三十四人あつたさうですが、暑中休暇間際に兩親と共に他に轉地したものもあつて、私が參觀した日には僅々十八人の幼児しか出席してゐませんでした。私は第二時間目から參觀致しました。聞く所によると、第一時間目には溫覺の練習があつたさうです。現に、幾つかの小甕に冷い水やあつい湯やぬるい湯がそなへてあります。第二時間目は静肅と云ふ課の時間で、子供は教場へ入る時に、口をつぐんで、爪先だけ、忍足で這入つて參りました。子供が室の一隅に静かに落着くと、教師は反対側の一隅に立つて、極めて低い殆んど聞きこれぬ音聲で、子供の姓名を呼びます。呼ばれた子供は、音をたてぬやうに静かに立つて、またぬき足で教師の側に至り、坐を占めます。かやう

に、一人／＼呼びましたが、不注意な子供は、自分の姓名を呼ばれたのに氣づかず、最後に残さられるので、怪んで教師に、「何故自分を呼んでくれぬか」と尋ねました。するご教師は、「お前を呼んだが聞えなかつた」と云つて笑つてゐます。子供も首をすくめて笑つて居りました。第三時間目は唱歌でありましたが、子供等は皆ピアノの周圍に集り、教師の弾奏につれて歌つて居ります。歌ひ得ない子供は見てゐるだけでありましたが、教師は強ひて教へ込まることせず、彼等が獨りでに他の真似をして歌ひ得るやうになるのを待つてゐると云ふ事であります。第四時間目に遊戯の時間でありましたが、或二三の子供が誰の指圖といふことなしに、「場所取り」の遊戯を始めますと、他の子供も皆それに暗示されて、全部が三々五々一かたまりづつになつて、餘念なく遊んで居りました。教師はたゞ黙つて腰掛け居るのみでありました。第五時間目は玩具を弄ぶ時間でありましたが、その玩具が各々まち／＼であります。或は「色絲ならべ」をする者あり、(絲巻に濃淡の差ある絲を巻きつけたのを、濃淡の度によつて順次に排列するもの)「積み木」をするものあり、「鉈の調節」をするも

のあり、(音色の相等しい鉈を一箇づゝ備へてあつて、それを調べ出して一組とし、尙ほ他の組との音の高低を考へて、總ての鉈を一組づゝ、音の高低の順に排列するもの)、文字を習ふもあり。(ボール紙にきりぬいた文字を指先きで撫でて字形を習ふもの)、種々なものであります。子供は人々の好むものを弄び、飽きが來れば、其を正しく元の位置に整頓して、又他の玩具をもち出して遊んで居りました。然して、間違ひがあつても、氣附かない子供には、教師が無言のまゝ指さして訂正すべき箇所を指摘致します。すると、子供は初めて氣がついたと云ふやうな顔付をして直しました。而して、其が出来上つても、別に教師から見て貰はうと云ふ事もせず、教師は又其をほめそやしたり、激勵したりすると云ふ事なしに、全然傍観者の態度で見て居りました。第六時間は舞蹈の時間でありましたが、可愛いゝ子供がにこやかな顔付で軽く飛びまわる様は、あだかもキュー・ピットの如き有様であります。その間教師はピアノを彈奏してゐるのみで、別に指導らしい世話をもしてをりませぬ。

各時間は大抵十五六分、長くて二十五分位で、この間に十分位の休憩時間を置いてあります。休憩時間には、児童は庭に出で、思ひ／＼の自由遊戯に耽つて居りますが、稽古の時間になると、皆、手を洗ひ、靴を綺麗にぬぐつて、室に入ります。その身支度が手間どつてお稽古に間に合はぬ事があつても、別にとがめもしませぬ。それに反して、靴のぬぐひ方がぞんざいであつたり、手の洗ひ方が不充分であつた場合には、教師は小聲で注意を興へ、身支度をし直させます。教師は常にこやかな顔付で、言ふにも小聲で致します。子供の中に騒ぐ者がありますれば、教師は自らの口を閉ぢ、指先で口をたゝいて見せて、子供に口を噤むべきを報らせます。如何なる事があつても、教師の威力をもつて児童を壓服し、その意に従はしめるといふやうな氣配は、毛頭見えませぬ。これが爲めに、教師も疲労せず、子供ものつたりと育ちます。この點は、所謂幼稚園と大いに趣を異にしてゐる所であります。

晝食の時間になりますと、子供は長幼の順に食卓につき、自ら前掛をつけて、行儀正しく腰掛けて居ります。もし自分で前掛の出来ぬ子供がありますと、

食後になると、一時間(六十分)を睡眠時間に當ります。この時間には子供は階上の寢室に入つて、静肅に眠ります。寢室に窓掛をかけて室内をうす暗くし、寢臺の上にはたゞ一枚の毛布を備へて居るのみであります。子供はその毛布をまとつて、静かにしてゐる中に、華胥の國に遊びますが、眼れなくても、

大きな子供がその世話をいたします。教師は女中と共に御馳走をもるのに忙しがつてゐるのみで、子供の世話はいたしませぬ。子供のうちに給仕當番がありまして、三日づつ續けて之をつとめます。即ち教師等が與へた皿を他の児童の前に運ぶのであります。が、この間に於て食事の御作法を練習させます。即ち先づ女の子に配膳し、次に男の子に配膳しますが、配膳を受ける子は必ず「ありがとうございます」と挨拶を致します。すると配膳する給仕も亦「ありがとうございます」と言葉をかへします。かくて配膳がすみ、先生が食卓につき匙を上げるのを見て、一同匙をとりますが、食事中無作法な事があれば、(皿の音をさせる如き、或は姿勢の悪い事の如き)、教師は低い聲で子供の名を呼んで、その注意を促します。食事がすめば、當番の子供はその後仕事の手傳をします。

黙つて寢臺の上に横はつてをること、彼等の規則となつて居る様であります。尤も、眠くないと云ふ子は、初めから教師に告げて、寢室に入らずに、庭に遊んでゐる事も出来ますが、その間は餘りあればまわる事は許されてゐませぬ。つまり休憩時間としては眠るを否とも論なく、身心の安靜を保たせる事を云ふ事にしてります。午後は又午前のやうな稽古をして、四時過ぎになれば、子供は歸宅するのであります。

この學校を見て感することは、その教育法がいかにも自然的で、家庭的であるといふ事であります。が、ひるがへつて考へて見れば、子供の本性と云ふものは、果してあのやうにおとなしいものであらうか、殊に静肅時間の如きは、なる程家庭生活に馴らすとしては、よい事であらうか、子供の本性を發揚させるといふ點から見れば、多少無理な所はありはしまいか、この邊が更らに研究を要すべきものだと思はれました。

一、幼稚園法 モンテソーリ法

私は同じくモンテソーリ女史の高弟の經營してゐ

る、ロスアンゼルス第七街小學校内の母親學校を見ました。あだかも、主任教師カタリン・モーア嬢が授業中でありました。時は大正八年九月の半ば過ぎで、新たに収容された子供が未だ二週間足らずしか學校生活を経ない時でありましたが、其の取扱がまことに無理のない……種々の家庭からの集りものであれば、餘程取扱は困難であらねばならぬのに、不思議にも子供は従順で、我意を張るといふものは、一人も見えませぬ。これは、畢竟教師が子供の好むまゝに働き、其を教師の考によつて、無理に直さうとしないからのやうに見えました。女史は、私に色々の經驗談をするために、しばらく子供を見習教師に託しました。この見習教師は、ニューヨーク市の某幼稚園の教師であつて、モンテソーリ法研究のため、わざ／＼派遣された者だそうでありましたが、未だモンテソーリ法が充分にのみこめない故か、子供をやかましく叱りつける、子供は騒ぎたてる、教師は青筋を立てる。さつきの平和な天地に比べれば、實に雲泥の差で教場は俄かに雷雨の襲來したかの如き光景に早變りました。ムーア嬢は額に皺をよせて、「幼稚園法はあれだから困る」と云つてをりました。私との話

がすんで、娘は再びその子供等をひきとりましたが、娘の時間になると、子供はあだかも雷雨の後の静寂の如く、實に見違へる程、おとなしいものになり變りました。誠に、面白い對照で、兩保育法の相違點が直觀的に觀取されました。

三、コロムビア大學附屬幼稚園

モンテソーリ法を採用してゐるところは、米國のあちらこちらにあります。私はシカゴ市のハリハウスに於ても、倉橋教授と一緒に之を見ました。シカゴ大學附屬幼稚園にも二日參觀にゆきましたが、同園では矢張り所謂幼稚園法を取つてゐますが、保母は中々熟練な、保母であつて、他で見たよりも、餘程見榮えがありました。しかし、依然として保母中心で、幼児はいつも保母にひつぱられて行動してゐます。フレーベルは児童の自己活動の上に幼稚園を建設したとは云ひますが、どこに自己活動があらはれてゐるか、餘程細心に觀察しても、見出せないやうな有様でありました。私は試みに保母に向つて、「何故にモンテソーリ法を採用せぬか」と聞きますと、「モンテソーリ法にはよい所もあるが、又悪い所

もある、自分等はそのよい所を取つて居る」と云ふことありました。私は「どんな所を取つてゐるか」と進んで尋ねました所、「子供は歸宅の際に外套を互に著せ合ふ、手工教授時間の前後に互に上被ウエーブを著せ合ふ」と云ふやうな事を二三挙げました。その他は、遊戯と云ひ、お話と云ひ、全然所謂幼稚園法であります。

私の最も感じたのは、ニューヨーク市のコロムビア大學附屬幼稚園であります。この幼稚園も二回參觀致しました。子供が所謂プロジェクト・メソッド（構案法）で、色々の細工物を致してをりました。御存じの通り、フレーベルの恩物は云ふまでもなく、モンテソーリの玩具も皆これ既成のものであります。是非とも何等かの形にならねばならぬやうに初め材料が仕組まれてあるもので、云はゞ子供を知らず知らずその牢に陥らしめる云ふことになるのであります。ですが、同幼稚園では、全く是等の恩物並びに玩具を廢して、之に代へるに、全くの粗材料をもつて致しました。それ故、子供等は鋸や槌や鉋や小刀を使用して、あたかも小學校の子供が木工細工をするが如く、自由に製作をいたします。例へば、此處に

舟をつくらうと云ふ考の幼児がありとしますれば、

その子供は木片箱の中から舟をつくるに程よい木片をあさり出して、鋸で切り、のみでついて、舟の形を造り、尚その上に煙突の格好した木片を釘でうちつける等、全く自己の力で材料を選択し、自己の力でそれを製作しあげのであります。勿論、子供の作品の事でありますから、見榮のよいものではありませぬが、子供の満足の情と云ふものは、既成の材料を組み合せて竣成した時とは比較になりませぬ。

勿論、児童の中には、金鎰で指をたゝいて、「痛つ」と云つて、舐めてゐるものもあり、鋸で手甲を傷けるものもありますが、教師に聞けば、それは極めてまれで、然して、追々に減少する云ふ事であります。他の事はしばらくご致しまして、私は同園がこの思ひ切つた仕方を採用してゐるのに對して、少からず敬意を表したのであります。その他英佛等におきましても、幼稚園を少しほのぞいて見ましたが、こゝに殊更にござりあげて申すほどの事もありません、このお話はこれに留めておきます。

○汽車の中

米原發の上り列車が國府津を過る頃から車中は混雑して來ました。夕暮でした。丁度私の向側に、七歳位の男の子とその父親が席をしました。その子の隣りには親戚の人らしい若者が居りました。子供はむつりとして見えました。ふと、父親はこの子をつれて手洗に行きましたが、やがてまた連れ戻り、今度は自分だけ手洗の方へとドーアをあけて行きました。子供は黙つてしばらく窓から外を眺めてゐました。お父さんはながく來ません。すると、子供はドーアの方をしきりにのぞき初めました。その眼には既に涙が一杯になつてゐました。私がチラとその子の顔を見ましたら何と思つたか、ガツと涙をのみこんで、また事もなげに窓の方へむいてしまいました。傍の若者はこの子の眼には氣がつきませんでした。黙つて煙草をふかしてゐました。子供は窓枠を指でなすりはじめました。暫くたつて、ドーアが開き、お父さんが歸つて来ました。この時子供は窓の方をむいたまま、ソーッとマントの縁で眼をふきました。お父さんが何にも知らずに席につくと、しばらくして子供はその膝に顔をこりました。父を待つ間に其の邊をなすりまはつた兩の手は眞黒になつてゐました。「汚ない手だり、さあ、洗つて來やう」。お父さんはかう言つてまたこの子を連れて行きました。再び席につくとお父さんはうたゝねを始めました。子供はしばらく父の顔をのぞき込んでゐましたが、自分も寝やうとして眼をつぶりました。父親はふと眼をあいて、子供の顔を見て、「風邪ひくなよ」と言ひながら自分の帽子と襟巻ですつかり子供をくるみました。頼りすぎるものを慕ひあこがるゝ心、たよりなさと淋しさから滲み出る涙！私はこの子の涙が束の間に消えたのを本當に幸であつたと思ひました。